

会 議 記 録				
会 議 の 名 称		広報広聴会議		会議場所 第3委員会室 担当職員 鈴木 智
日 時		令和2年8月24日(月曜日)		開 議 午後 2時 15 分 閉 議 午後 2時 50 分
出席委員		◎小川 ○三上(広報部会長) ○赤坂(広聴部会長) 富谷 浅田 大塚 木村 三宅 松山		
事務局 出席者		山内事務局長、井上次長、鈴木議事調査係長、小野主任、山内主事		
傍聴	可	市民0名	報道関係者0名	議員 0名(-)

会 議 の 概 要

1 4 : 1 5

[小川委員長 開議]

1 広報部会活動

(1) 議会だよりについて

○No.186の編集

[三上副委員長 説明]

・議会だよりNo.186は、9月議会の決算審査を特集する。議員対談（田中議員、福井議員、木曾議員）を行う日程は、できるだけ早く調整する。また、No.185の表紙は、このような表紙でもよいのかという意見が事前にあったが、発行してからは、そのような声は聞いていない。市役所内では評判がよかった。

<赤坂副委員長>

クイズの評判はよかった。難しくても面白いと言われた。次回は簡単なものにしてほしい。また、今後対談の記事はどのようにしていくのか。

<三上副委員長>

No.180の表紙に広報広聴会議委員の写真を出したので、それ以外の議員の対談記事を掲載することにより、平等に扱おうとするものである。No.186で終了する予定である。

<赤坂副委員長>

議員対談は楽しい部分である。広報広聴会議委員が登場してもよいのではないかとすべての議員が均等に登場する必要はない。

<三上副委員長>

今後も議員が登場することにしていくが、対談形式になるかは未定である。

<松山委員>

議員をもっと身近に感じられる方がよいと思う。

<小川委員長>

今後、広報部会で検討いただきたい。

2 広聴部会活動

(1) 環境事業公社の吉川小学校学習支援事業について

[赤坂副委員長 説明]

・9月3日に正副議長、広報広聴会議正副委員長、広聴部会委員の8人で吉川小学校

へ調整に行く。吉川小学校の6年生9人と教員、環境事業公社の職員と打ち合わせする。新型コロナウイルス感染症対策は万全にしていきたい。また、環境活動をされている人たちと意見交換しながら、今後、来年の1月までに子ども議会につなげるようにしていきたい。

<三上副委員長>

議会としては、行政視察を受け入れていない中で、これだけを特別に認めることはできないのではないかと。授業が大変な中であり、子ども議会の日程は難しくなるかもしれないことを、吉川小学校の校長とも話をしていた。

<赤坂副委員長>

今後の状況で中止になるかもしれない。気をつけて対応していきたい。

<三上副委員長>

市議会のホームページのトップに、市民の生命・財産を守るため、写真を掲載しながら、防災・減災に最優先で全力に取り組むことを広報していきたい。このことは、先日の議会運営委員会で提案した。今後、広報部会で検討していきたい。

<松山委員>

よいと思うが、何のためにホームページに掲載するのか。

<三上副委員長>

掲載してどう変わるのかということは確かにある。亀岡市には水害と戦ってきた歴史があり、議会の意識をアピールしなければならない。ホームページに掲載することで、市民から議員に防災・減災に関する声を届けてもらうようにしていきたい。今後、広報広聴会議、議会運営委員会に諮っていきたい。

<赤坂副委員長>

ホームページが見づらいので、形式を大きく変えていくべきである。楽しい広報ができなければ、市民が楽しく思えない。

<三宅委員>

担当部には、だめなところを伝えた。大項目、中項目、小項目に分けて掲載すべきである。契約期間が残っているので、今は変更できないとのことである。

<三上副委員長>

防災・減災を発信していくことを考えていきたい。新型コロナウイルス感染症に関する決議を可決したが、このようなタイムリーな話題がホームページの一番上に表示されない。

<松山委員>

防災・減災に関しては、市民と対話できる環境が大切である。例えば、災害時には、この場所が水に浸かること等について対話できることが大切である。

<小川委員長>

広報部会で検討し、広報広聴会議、議会運営委員会で諮るようにしていきたい。

3 その他

(なし)

散会 14:50